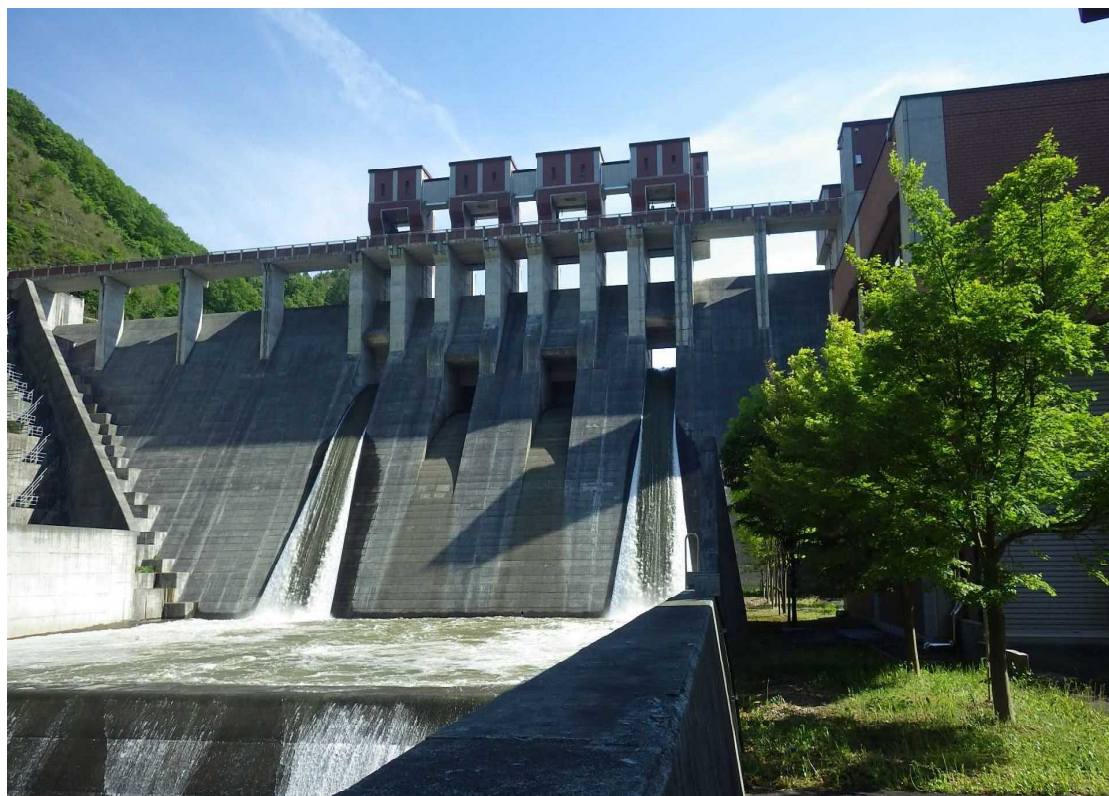


北奥羽調査だより



よまさり
「国営八戸平原地区世増ダムの放水状況」

● おもな内容 ●

■巻頭言

■土地改良区理事長 の紹介

■トピックス

■業務紹介

- ／ 新所長挨拶
- ／ 浪岡川土地改良区理事長
- ／ 屏風山土地改良区理事長
- ／ 世界かんがい施設遺産「土淵堰」の紹介
- ／ 事務所業務体制（平成30年度）
- ／ 事業実施地区の紹介「浪岡川地区」
- ／ 調査地区の紹介「浪岡川（二期）地区」
- ／ 調査地区の紹介「浅瀬石川二期地区」
- ／ 国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業
（機能保全計画策定事業）の実施状況

■編集後記



東北農政局
北奥羽土地改良調査管理事務所

農林水産省

巻頭言（新所長挨拶）

～時を越えた豊かな恵みの継承のために～



北奥羽土地改良調査管理事務所 所長 吉田 勉

4月の異動で北奥羽土地改良調査管理事務所に参りました。よろしくお願いします。前任地は本省大臣官房地方課で、地方公共団体や各種団体等からの政務三役への面会要請や事務方との意見交換会に係る企画調整、道州制特区などの北海道農林水産業施策に係る連絡調整に携わっていました。

東北管内の勤務は平成13年4月以来であり、青森県内の赴任は初めです。東北管内に戻るまでには、東海・近畿・中国四国・九州の各農政局において、調査・計画関係業務に携わりましたので、これまでの見聞・経験を今後の調査・計画に役立てたいと考えております。

当事務所では、浅瀬石川流域の老朽化が進行している水利施設の改修と、大規模地震に対し必要な耐震性を有していない施設の耐震化対策などを行う「浅瀬石川二期地区」の地区調査を実施しています。本年度は地区調査の最終年であることから、土地改良事業計画書（案）の取りまとめ、次年度から予定している全体実施設計への対応を行います。

また、平成28年度に着工した国営施設応急対策事業「浪岡川地区」については、今年度、^{しろがね}銀頭首工の改修工事等の実施をもって事業を完了することとしています。

一方、改修した銀頭首工及び川倉揚水機場以外のダム、頭首工、揚水機場、用水路等についても、老朽化は進行しています。このため、「浪岡川（二期）地区」において原因究明等調査を行っており、今年はダム洪水吐等の原因究明調査、夕顔関頭首工や川倉導水路の耐震性能調査とともに、受益面積や現地環境調査、施設整備計画を検討することとしています。

そのほか、当事務所では水利ストックマネジメント推進事業、適正な取水管理・点検、地域の農業基盤に関する情報収集等多岐に渡る業務を担っており、職員一丸となって取り組んでまいります。

農業農村整備は、食料・農業・農村基本計画等に基づき、「産業政策」と「地域政策」を車の両輪として展開する農政において、競争力強化のための生産基盤づくりや国土強靱化、農村地域の防災・減災を担う重要な施策であり、しっかりと推進する必要があります。また、青森県においては、農林水産業の生産基盤などの整備を行う公共事業を「環境公共」と位置付け、収益と働く場を生み出す「産業力強化」と人口減少社会に対応した「地域力強化」を車の両輪として展開し、農林水産業の成長産業化を目指しているところであります。

現在、青森県内では、小田川二期地区、平川二期地区、津軽北部二期地区、十三湖地区において国営土地改良事業を実施しています。関係する各事業（務）所や青森県拠点と連携を図りながら、強く豊かな農業と美しく活力ある農村が創出され、時を越えて豊かな恵みが継承されるよう土地改良事業を推進していきたいと考えています。

最後になりますが、県及び市町村、土地改良区等の方々とよく話し合い・意見を聴き、連携を図りながら東北農業の振興・発展の一助となるよう努めてまいりますので、御指導・御支援をお願いします。

土地改良区理事長の紹介

浪岡川土地改良区理事長 にしづか 西塚 いくえい 育英

～理事長就任にあたって～

昨年 10 月役員任期満了に伴う選挙が執行され、その後の理事組織会において満場により理事長に推薦され、大先輩の理事長である木村清明氏から職を引き継ぐこととなり、去る 10 月 8 日に就任しました。



役所を退職してから約 10 年が過ぎ、再度準公的機関に身を置くことになるとは思いませんでしたが、師と仰ぐ萩原茂裕先生の教えである「公的機関に身を置く者は、住みよい地域を作ることが仕事であり、住みよい地域を作る仕事に終わりはない」を思い出し、大変な職を引き受けたと後悔の念を持ちましたが、一旦引き受けたからには努力しなければとの思いにもなり、土地改良法の目的である『農業生産の基盤の整備及び開発、更に生産性の向上、増大、生産の選択的拡大及び農業構造の改善』のためにはどのようにすべきか考えているところです。

さて、私どもの改良区のみならず各々の土地改良区でも様々な懸案を抱えていると思いますが、これまで造成された施設の中には、完成後 30 年以上経過している施設が多数あり、当改良区の基幹的農業施設も、昭和 46 年度から 63 年度に造成されており、経年的な施設の老朽化等により性能が低下し、農業用水の安定供給に支障を来しているとともに、施設の維持管理費に多大な費用と労力を要しているところです。

このため上流地区である浪岡川地区で平成 28 年度から平成 30 年度の予定で国営施設応急対策事業を実施し、施設の機能保全を進め、農業用水の安定供給及び施設の維持管理費用と労力の軽減を図り、農業生産性の向上と農業経営の安定を目指して取り組んでいるところです。

今後は浪岡川二期として下流地区にあたる五所川原市南部地区と主要施設の浪岡ダム関連施設の原因究明等の調査を平成 29 年度から 32 年度までの予定で実施し、対策工法や環境への配慮及び費用対効果等を整理し、事業計画案を作成する予定となっています。

このように昭和時代に造成された施設は、いま改修期を迎え、地元負担など悩ましい問題もありますが、国及び県等、関係機関の協力を得ながら着実に進めてまいりたいと考えています。

終わりに、豊かな農村環境を後世に継承するために 4 年間取り組んでまいりますので、引き続き御支援くださるようお願いいたします。